目指す生徒像・教職員像
「自ら光り、
人のために生きる
子ども・教職員・保護者」
『愛にあふれた学校を』
『掃除・笑い・感謝』

ふじちゅうあい

〈校長室だより H31＃15〉
令和元年 6 月 17 日(月)発行

学年目標
１年 互いに高め合い、感謝の心を実践する生徒
２年 “なぜ、どうして”を大切に、
共に考え、ｵﾝﾘｰﾜﾝの自分(達)を創っていこう！
３年 目標に向かって**とことん**やり抜こう

藤中の子どもたちの
未来を生きる「ちから」、日光市を育てる「ちから」

今年、1 月 1 日の「朝日新聞」の１面に、２０５０年の日本の予測をしたシナリオが載っていました。そこに書いてあったものは、「都市集中」では幸せな日本を持続できないということがあり、正直、私自身、そういった考えを持っていなかったので、びっくりしました。

つまり、「地方分散」で、『地方』と『都市』が両輪で動かないと、「豊かな未来・日本」はない、ということです。私は、その時、大学４年になる娘に、「栃木に戻って、どうするのだ？」
というような発言をしていて、その思慮が欠けている非常識さを改めて恥じました。

さて、今年の先生方の目標に、「未来を生きる学力・日光市を育てる学力」という研究を加えてもらいました。

国や県、市は、各種のテストについて、興味が行きがちですが、私は、ここ、藤中の子どもたちが、未来、充実して幸せに生きること、また、私たちの日光が豊かに残り、そこで生き生きと生活できること、そのふたつが、とても重要だと感じたからです。

さて、写真は、この春の地区大会で、バッターボックスに立った、琉玄君です。

この春、野球部員は、８名です。そこで、吹奏楽部の２年生３名が助けに入ってくれました。

琉玄君、祥太君、公之祐君に、何故、手伝ってくれ気になったのか、ある朝、廊下で聞きました。すると、「役に立ちたかった」と言いました。そして、その時、３人の瞳が、とても澄んでまっすぐだったこと、が私の胸を貫きました。

この時の試合は、素晴らしい好ゲームで、最終回０－０、その裏に、加点され負けてしまったのですが、私にとって、いや、保護者や子どもたちにとっても、とても貴重な試合だった、と思います。勝負なのですから、勝ちたいのはもちろんなのですが、私には、県大会で優勝するくらいの価値がありました。

ここで、最初に戻ります。この３人の行動は、「未来を生きる力・日光市を育てる力」になりませんか。そのちからを具体的に言うのであれば、

○「新しいことにチャレンジする力」　○「得意分野ではないことに、耐える力」

○「組織を成り立たせる力」　○「他人を助ける力」　　そして、「愛」

【大会等結果】
鬼怒川ソフトテニス大会　３位
春季大会　サッカー部　　３位
卓球部　　男子団体３位　　女子個人３位・渡邊彩加
バドミントン　男子シングルス　準優勝　原田琉生
陸上　共通男子　走り幅跳び　優勝　福田涼馬
２年男子　１００ｍ　　４位　爲川　克

春季陸上大会でとても印象に残ったことです。それは、藤中の子どもたちが、**自ら参加**して、一生懸命走り、跳び、最後の集合写真が、**満面の笑顔**であったことです。

私は、辛い、苦手なことから逃げてきた、様々な思い出のひとつに、今市中の時、クラス対抗の駅伝競走大会があります。当時、長距離をクラス代表として走る苦しさ・自分のみっともなさを出すことが嫌で、参加しなかった、苦い思い出です。(でも、嫌な思い出の方が、もしかしたら残るし、その後の自分を創るかも知れませんね。)

反対に、今回陸上大会に出た藤中の子どもたちの姿勢を私は**誇らしく**思いました。

「自分の運命を愛せよ、それが自分の人生なんだ」　哲学者ニーチェ

ちょっと、見たこと

①３年生の道徳で、「ホスピタリティ」について、学習した後のことだったそうです。
嵩くんが、修学旅行でお世話になった旅行会社の山瀬さんが帰るときに、ドアを開けて持ってくれていたということです。

②**萌々香さん**が、登校途中で、スーパーの袋が落ちていて、その中身ごと拾って、学校に持ってきてくれたということです。

③**田中美優さんと依那さん、彩音さん**がある朝、遠くから、「校長先生だ」という視線を送ってくれ、静かに、「おはようございます」と言ってくれたそのあいさつの存在感は、群を抜いていました。

④生徒総会が終わり、廊下を歩きながら、**麻由さん**と、
山口「麻由は、将来何になりたいの？」
麻由「分からないですけど、**人の役に立ちたいんです**。」　(*^0^*) 感動／(^o^)＼